

平成 17 年度「医療連携と退院後受療に係る調査」

I. 調査の概要

1. 調査の目的
2. 班構成
3. 調査方法
4. 調査票 (省略)
 - (1) 一次調査：「DPC 病院、DPC 試行的適用病院、DPC 調査協力病院に対する調査」
 - (2) 二次調査：「DPC 病院等との連携先医療機関・施設の職員に対する調査」

II. 調査票発送と回収の詳細

1. 一次調査対象医療機関の選択
2. 一次調査票の回収
3. 二次調査対象医療機関の選択
4. 二次調査票の回収

III. 「DPC 病院、DPC 試行的適用病院、DPC 調査協力病院に対する調査」の集計結果

IV. 「DPC 病院等との連携先医療機関・施設の職員に対する調査」の集計結果

V. まとめ

I. 調査の概要

1. 調査の目的

平成 15 年度に施行された DPC に基づく包括評価制度は、特定機能病院等 82 医療機関から始まり、平成 16 年度より DPC 試行的適用病院として拡大されてきた。また、この拡大と期を一にして、包括評価制度は適用しないが EF ファイル等 DPC 病院等と同等の診療情報を厚生労働省に提供し、制度の検証等に協力するべく、DPC 調査協力病院が募集されている。

診療報酬調査専門組織のひとつである DPC 評価分科会では、これら病院からの診療情報や各種特別調査の結果について検討し、DPC の導入後、入院日数（平均在院日数）の短縮が進んでいること、DPC 病院が DPC 試行的適用病院や DPC 調査協力病院に比して複雑な病態に対する診療をより多く行っていること、患者満足度は良く、相互に差異が無いことなどを確認している。

この調査「医療連携と退院後受療に係る調査」は、平成 16 年度より DPC 評価分科会が「DPC 導入の影響評価のための調査研究」の一環として調査班を編成して行うものである。また、この調査の目的とするところは、DPC に基づく包括評価制度導入により各病院の入院日数の短縮が進む中で、医療連携に問題が生じていないか、地域医療への混乱が生じていないかなど、「医療の質」にかかわることことから医療機関への調査票を通して検討することである。

今回の調査では、昨年度の調査結果をふまえ、調査対象を DPC 病院に加えて DPC 試行的適用病院および DPC 調査協力病院に拡大し、それぞれ医療機関の診療科の医療連携にかかわる診療形態を調査する（これを「一次調査」という。）と共に、各医療機関診療科からの情報に基づき、医療連携先の医療機関・施設の職員に対し、医療連携に関する意識および一次調査の医療機関に対する評価（これを「二次調査」という。）を、調査票をもちいて調査した。これらの結果について、DPC 病院、DPC 試行的適用病院、DPC 調査協力病院を比較検討した。

2. 班構成

診療報酬調査専門組織 DPC 評価分科会「医療連携と退院後受療に係る調査」班
酒巻哲夫（群馬大学医療情報部教授）—————調査事務局
池上直己（慶應義塾大学医学部医療政策・管理学教授）
熊本一朗（鹿児島大学医療情報管理学教授）
三上裕司（総合病院東香里病院院長）
山本義一（JFE 健康保険組合川鉄千葉病院院長）

3. 調査方法

診療報酬調査専門組織 DPC 評価分科会での議論をもとに、「医療連携と退院後受療に係る調査」班を組織し、調査項目、調査方法などを検討し、調査を行った。

調査は一次調査と二次調査からなる。

一次調査は、DPC 病院、DPC 試行的適用病院および DPC 調査協力病院のそれぞれ約 25 医療機関を全国に平均に分布するよう、また設立母体や規模の偏在を避けてノミネートして調査協力を要請した。平成 17 年 10 月 19 日に慈恵医科大学において調査についての説明会を開催し、この後に調査を希望した医療機関を含めて、98 施設が一次調査の対象となった。なお、DPC 調査協力病院については、16 年度から調査協力病院となっていることを原則にした。

二次調査は、一次調査で各病院の診療科が「退院患者様を紹介するにあたって緊密な関係にある上位の医療機関・施設」として第 3 位までを報告したもののうち、入院として年間 5 名以上の紹介をしたとする連携先医療機関・施設に対して調査票を送付して行った。

一次および二次調査票は次項に示すとおりである。平成 16 年度に行った同名の調査の質問項目をふまえ、更に詳細な検討が可能なよう項目数を増やし、一方で選択肢を用いるなど回答者の負担の軽減を計ることとした。主要な調査事項は下記のごとき内容である。

(一次調査票の基本的な質問事項)

- ① 診療科の診療内容と DPC 導入後の変化：入院患者の MDC 疾患分類、患者の病態の複雑性、癌・悪性腫瘍患者の比率、リハビリテーションを必要とする患者の比率
- ② 診療科の患者受け入れ状況と DPC 導入後の変化：平均在院日数、稼動病床数、年間入院患者数、患者待機状況、他医療機関からの紹介実績
- ③ 他医療機関への紹介（第 2 次調査の基礎データ）：連携の密な医療機関リスト、紹介の理由、連携先医療機関へのニーズ

(二次調査票の基本的な質問事項)

- ① 医療機関の機能：病院/診療所/施設、診療科目数、急性期あるいは慢性期リハビリテーション機能、在宅支援
- ② DPC 病院等への評価：職員の目から見た治療への評価、職員の仕事量への負担感、患者の声を聞いての間接的評価、今後の受け入れの可否
- ③ DPC 病院等への要望（ニーズ）

なお、調査は概ね以下のスケジュールで行われた。

平成 17 年 10 月 19 日	調査説明会開催
平成 17 年 10 月末	一次調査票の発送開始
平成 17 年 12 月～	一次調査票回収
平成 18 年 1 月～	二次調査票の発送開始
平成 18 年 2 月～	二次調査票の回収

4. 調査票（省略）

- (1) 一次調査：「DPC 病院、DPC 試行的適用病院、DPC 調査協力病院に対する調査」
- (2) 二次調査：「DPC 病院等との連携先医療機関・施設の職員に対する調査」

II. 調査票発送と回収の詳細

1. 一次調査対象医療機関の選択

DPC 病院、DPC 試行的適用病院、DPC 調査協力病院について、昨年度に調査を行った病院を除外し、地域性、設立母体を考慮して、それぞれ 24 病院、27 病院、47 病院に調査票を送付した。

2. 一次調査票の回収

【DPC 病院】21 病院から一次調査に対する調査票を回収できた。病院名は以下のとおりであり、回収率は 87.5%であった。

岩手医科大学附属病院
北海道大学病院
日本大学医学部附属板橋病院
筑波大学附属病院
防衛医科大学校病院
埼玉医科大学病院
名古屋大学医学部附属病院
愛知医科大学病院
大阪大学医学部附属病院
近畿大学医学部附属病院
京都大学医学部附属病院
岡山大学医学部・歯学部附属病院
山口大学医学部附属病院
高知大学医学部附属病院
九州大学病院
長崎大学医学部・歯学部附属病院
鹿児島大学病院
福井大学医学部附属病院
金沢医科大学病院
富山医科薬科大学附属病院
山形大学医学部附属病院

【DPC 試行的適用病院】25 病院から一次調査に対する調査票を回収できた。病院名は以下のとおりであり、回収率は 92.6%であった。

医療法人溪仁会 手稻溪仁会病院
医療法人 禎心会病院
新日鐵室蘭総合病院
医療法人 社団 カス アライアンス 日鋼記念病院
社会保険中央総合病院
医療法人鉄蕉会 亀田総合病院
埼玉協同病院

社会保険群馬中央総合病院
社会保険山梨病院
健康保険組合連合会 大阪中央病院
松下電器健康保険組合 松下記念病院
独立行政法人国立病院機構大阪南医療センター
洛和会音羽病院
財団法人倉敷中央病院
マツダ株式会社 マツダ病院
独立行政法人国立病院機構九州医療センター
独立行政法人国立病院機構嬉野医療センター
佐賀社会保険病院
健康保険天草中央総合病院
健康保険人吉総合病院
金沢社会保険病院
南砺市民病院
社会保険二本松病院
財団法人竹田総合病院
独立行政法人国立病院機構仙台医療センター

【DPC 調査協力病院】45 病院から一次調査に対する調査票を回収できた。病院名は以下のとおりであり、回収率は 95.7%であった。

岩手県立中央病院
岩手医科大学附属循環器医療センター
医療法人医仁会 中村記念病院
財団法人聖路加国際病院
医療法人財団 石心会 川崎幸病院
医療法人社団 愛心会 湘南鎌倉総合病院
国家公務員共済組合連合会 平塚共済病院
秦野赤十字病院
J A神奈川県厚生連 伊勢原協同病院
J F E 健康保険組合川鉄千葉病院
医療法人社団木下会 千葉西総合病院
医療法人社団圭春会 小張総合病院
株式会社日立製作所 水戸総合病院
済生会宇都宮病院
医療法人財団 石心会 狭山病院
上尾中央総合病院
長野県厚生農業協同組合連合会 佐久総合病院
独立行政法人国立病院機構長野病院
三島社会保険病院
みなと医療生活協同組合 協立総合病院
医療法人 宏潤会 大同病院
独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター
トヨタ記念病院
四日市社会保険病院

大津赤十字病院
 大阪府立成人病センター
 財団法人 大阪警察協会 大阪警察病院
 箕面市立病院
 恩賜財団社会福祉法人 大阪府済生会 富田林病院
 神戸赤十字病院
 医療法人財団 姫路聖マリア病院
 赤穂市民病院
 特定医療法人 鴻仁会 岡山中央病院
 岡山赤十字病院
 広島県立広島病院
 徳島赤十字病院
 公立八女総合病院
 医療法人祐愛会 織田病院
 日本赤十字社長崎原爆病院
 医療法人 白十字会 佐世保中央病院
 国保水俣市立総合医療センター
 川内市医師会立市民病院
 医療法人友愛会 豊見城中央病院
 福井県済生会病院
 調査協力病院A

3. 二次調査対象医療機関の選択

一次調査の各診療科より得られた連携先医療機関・施設（以下「機関」という。）のうち、年間5例以上の入院患者を紹介していると報告された機関に二次調査票を送付した。近隣に2つ以上の一次調査対象となった医療機関があるために、あるいは同一の医療機関から2つ以上の診療科が重複して同じ連携先機関をあげたために、実際に発送した医療機関・施設数は重複しているが、1168（件）である。

4. 二次調査票の回収

1168件の二次調査票送付に対し、556件を回収できた。回収率は47.6%である。なお、回答は、各機関の職員のうち、紹介元となった医療機関の診療科からの患者の診療に関与した職員3から5名が行うよう依頼しており、得た調査票の数は2136件である。一機関あたりの回答した職員数は平均3.8人であった。

DPC病院、DPC 試行的適用病院、DPC 調査協力病院のそれぞれの一次調査にもとづく回収の状況は下記の表のとおりである。それぞれの回収率は49.8%、53.4%、42.5%であり、これら3種の病院の回収率に大きな差異は無かった。

	総数	DPC病院からの報告に基づくもの	DPC 試行病院からの報告に基づくもの	DPC 協力病院からの報告に基づくもの
発送した医療機関・施設数(重複あり)	1168	422	264	482
回収した医療機関・施設数(重複あり)	556	210	141	205
回収した調査票数(回答した職員数)	2136	817	562	757

Ⅲ. 「DPC 病院、DPC 試行的適用病院、DPC 調査協力病院に対する調査」の集計結果

分かりやすくする為に、各質問項目を挙げて集計結果を示す。

質問 1 貴診療科の属する系についてお答え下さい。

<input type="checkbox"/> 1. 内科系 <input type="checkbox"/> 3. 内科系と外科系の混成 <input type="checkbox"/> 2. 外科系 <input type="checkbox"/> 4. その他

質問 1 の集計結果

調査した診療科の総数	1. 内科系	2. 外科系	3. 内科系 と外科系の 混成	4. その他	計
DPC 病院 (21 施設)	185	217	31	17	450
DPC 試行的適用病院 (25 施設)	117	151	20	19	307
DPC 調査協力病院 (45 施設)	199	311	43	22	575

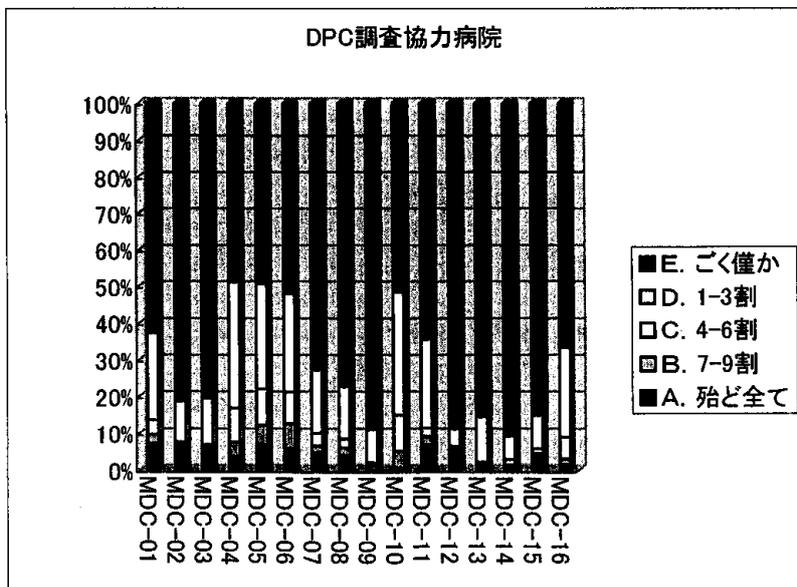
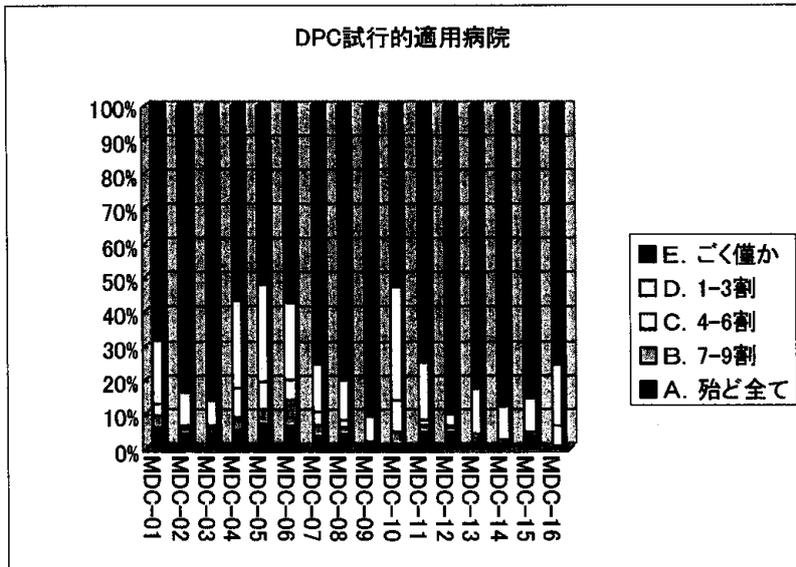
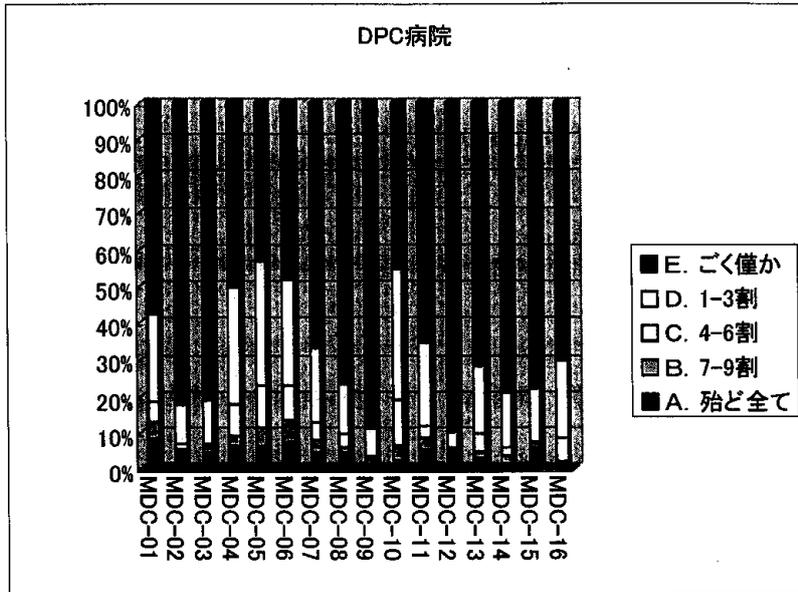
質問 2 貴診療科に入院する患者様の病態について疾患構成割合を以下に示す A B C D E の何れかを用いてお答え下さい。なお、この割合は DPC 分類に用いた疾患のみならず、主要な合併症、併存症も含めてご記入下さい。

<p>ABCDE について</p> <p>A : 全て、もしくは殆ど全ての患者様が該当する</p> <p>B : 大多数の患者様が該当する (目安として 7~9 割程度)</p> <p>C : 半数程度の患者様が該当する (目安として 4~6 割程度)</p> <p>D : 少数の患者様が該当する (目安として 1~3 割程度)</p> <p>E : ごく僅かの患者様が該当する、もしくは該当する患者様がない</p>

★ 記入要領：糖尿病性網膜症などの手術を相当数行っており、高血圧症を併存する患者様も少数であるが常に入院しているという眼科であれば、02 眼科系疾患 (A)、05 循環器系疾患 (D)、10 内分泌・栄養・代謝に関する疾患 (B) もしくは (C)、他の分類は (E) などとする。

MDC 分類	ABCDE で示す割合
01 神経系疾患-----	()
02 眼科系疾患-----	()
03 耳鼻咽喉科系疾患-----	()
04 呼吸器疾患-----	()
05 循環器系疾患-----	()
06 消化器系、肝臓・胆道・膵臓疾患-----	()
07 筋骨格系疾患-----	()
08 皮膚・皮下組織の疾患-----	()
09 乳房の疾患-----	()
10 内分泌・栄養・代謝に関する疾患-----	()
11 腎・尿路系疾患および男性生殖器系疾患-----	()
12 女性生殖器系疾患および産褥期疾患・異常妊娠分娩-----	()
13 血液・造血器・免疫臓器の疾患-----	()
14 新生児疾患、先天性奇形-----	()
15 小児疾患-----	()
16 外傷・熱傷・中毒、異物、その他の疾患-----	()

質問2：各MDCについて



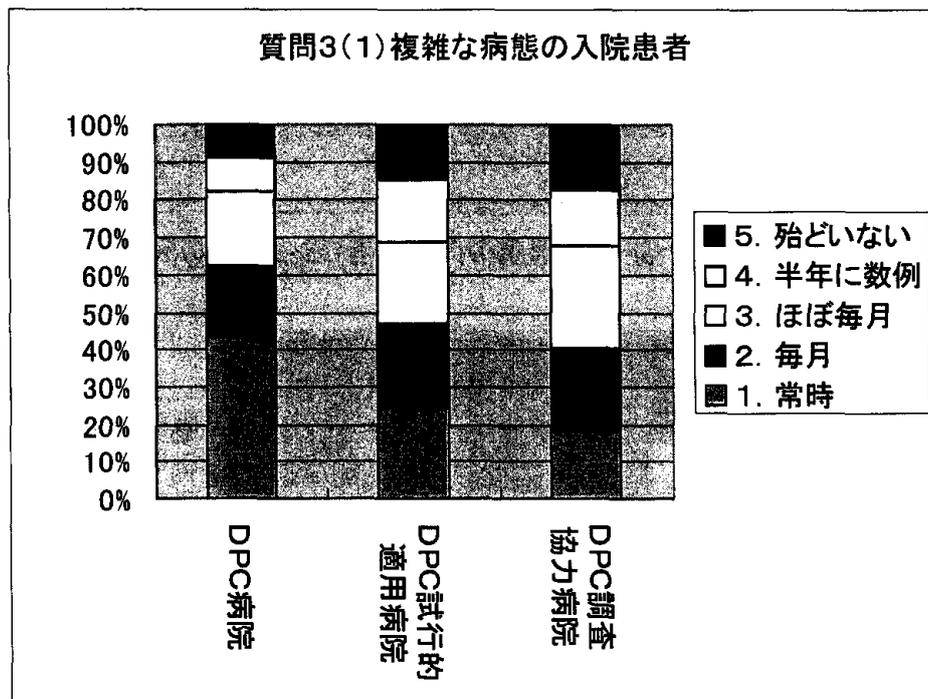
質問3 (1) 貴診療科に入院する患者様のうち、複雑な病態の患者様の頻度についてお尋ねします。

ここで複雑な病態を有する患者様とは、①複数のMDC疾患分類にまたがる重い合併症や併存症などを有するため、頻回に他診療科の医師もしくは他分野の専門医のコンサルテーションを必要とする患者様、②異なる専門的な診断技術や治療技術を同時期に用いるため、他診療科の医師もしくは他分野の専門医の協力を頻回に必要とする患者様、③病態の急激な変化などで院内の他診療科への転科を必要とする患者様、④ICU、HCU、NICUなどで集中管理を必要とする患者様、⑤前記の理由で他の病院に緊急に転院を必要とする患者様などを指します。

この①②③④⑤の何れかに該当する患者様の頻度をお答え下さい。

なお、①②で頻回とは、術前・術後のルーチン化した他科受診、麻酔科受診、リハビリテーションに係わる受診を除外したうえで、数回以上の診療協力が入院中のある時期に集中して、あるいは入院全般を通じて生ずる場合です。また、③④については、手術と関連するルーチン化した院内診療連携の場合を除外してください。

- 1. 常時、数例以上の複雑な病態を有する患者様が入院している
- 2. 毎月、数例の複雑な病態を有する患者様が入院して、途絶えることが無い
- 3. ほぼ毎月、複雑な病態を有する患者様が入院するが、途絶えることもある
- 4. 半年に数例程度の複雑な病態を有する患者様が入院する
- 5. 複雑な病態を有する患者様は殆どいないか、年間に数例程度にとどまる



χ^2 乗: $p=0.000$

質問3 (2) 貴診療科において、質問3 (1) に該当する「複雑な病態を有する」入院患者様は、この3、4年の間に増加する傾向にありますか、それとも減少する傾向にありますか。

- 複雑な病態を有する入院患者様は
- 1. 著しく増加する傾向にある
 - 2. 増加する傾向にある
 - 3. 変わらない
 - 4. 減少する傾向にある
 - 5. 著しく減少する傾向にある

質問3 (2) 複雑な病態を有する入院患者様数の増加 (診療科数)

	1. 著しく増加	2. 増加	3. 変わらない	4. 減少	5. 著しく減少	6. 無回答
DPC病院	35	232	172	5	2	4
DPC 試行的適用病院	8	120	169	4	0	6
DPC 調査協力病院	24	259	282	8	0	2

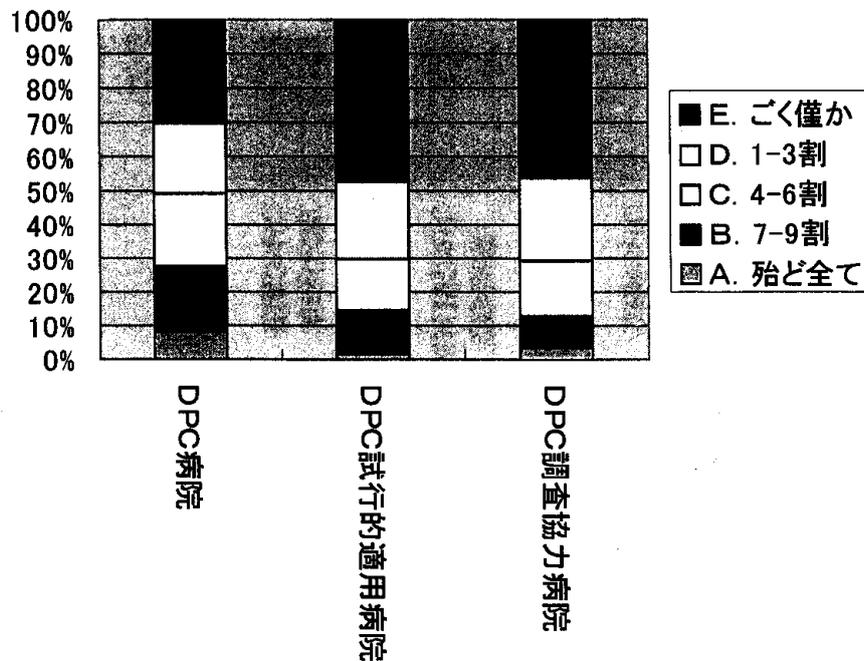
χ^2 乗: $p=0.000$

質問4 (1) 貴診療科において、癌・悪性腫瘍 (血液系をも含む) の診断・治療を目的として入院する患者様の割合を、以下に示すABCDEの何れかでお答え下さい。

- A: 全て、もしくは殆ど全ての患者様が該当する
- B: 大多数の患者様が該当する (目安として7~9割程度)
- C: 半数程度の患者様が該当する (目安として4~6割程度)
- D: 少数の患者様が該当する (目安として1~3割程度)
- E: ごく僅かの患者様が該当する、もしくは該当する患者様がない

入院患者様のうち、癌・悪性腫瘍の割合は ()

質問4(1) 癌・悪性腫瘍の入院患者 (診療科数の%)



χ^2 乗: $p=0.000$

質問4 (2) 貴診療科において、質問4 (1) に該当する「癌・悪性腫瘍」の患者様は、この3、4年の間に増加する傾向にありますか、それとも減少する傾向にありますか。

癌・悪性腫瘍の患者様は

- 1. 著しく増加する傾向にある
- 2. 増加する傾向にある
- 3. 変わらない
- 4. 減少する傾向にある
- 5. 著しく減少する傾向にある

質問4 (2) 癌患者の数の変化 (診療科数)

	1. 著しく増加	2. 増加	3. 変わらない	4. 減少	5. 著しく減少	6. 無回答
DPC病院	26	180	227	10	2	5
DPC試行的適用病院	4	84	211	3	0	5
DPC調査協力病院	11	209	339	11	1	4

χ 二乗：p=0.000

質問5 (1) 貴診療科において、入院中にリハビリテーションを受ける、あるいは退院後にそれを必要とする患者様の割合を、以下に示すABCDEの何れかでお答え下さい。

- A：全て、もしくは殆ど全ての患者様が該当する
- B：大多数の患者様が該当する (目安として7～9割程度)
- C：半数程度の患者様が該当する (目安として4～6割程度)
- D：少数の患者様が該当する (目安として1～3割程度)
- E：ごく僅かの患者様が該当する、もしくは該当する患者様がない

リハビリテーションを受ける、あるいは必要とする患者様の割合は ()

質問5 (1) リハビリテーション患者の割合 (診療科数)

	A. 殆ど全て	B. 7-9割	C. 4-6割	D. 1-3割	E. ごく僅か	F. 無回答
DPC病院	16	28	63	195	148	0
DPC試行的適用病院	20	28	41	110	106	2
DPC調査協力病院	32	54	83	183	222	1

質問5 (2) 貴診療科において、質問5 (1) に該当する「入院中にリハビリテーションを受ける、あるいは退院後にそれを必要とする」患者様は、この3、4年の間に増加する傾向にありますか、それとも減少する傾向にありますか。また、そのような患者様への方針はどのようなものですか。

リハビリテーションを受ける、あるいは必要とする患者様は <input type="checkbox"/> 1. 著しく増加する傾向にある <input type="checkbox"/> 2. 増加する傾向にある <input type="checkbox"/> 3. 変わらない <input type="checkbox"/> 4. 減少する傾向にある <input type="checkbox"/> 5. 著しく減少する傾向にある	患者様のリハビリテーションは <input type="checkbox"/> 1. 自院で十分に行う <input type="checkbox"/> 2. 早期のみとし、後は他院に紹介する <input type="checkbox"/> 3. 自院では行わず、専門機関に任せる <input type="checkbox"/> 4. 特に方針は無い <input type="checkbox"/> 5. 必要となる患者様は殆どいない
--	---

質問5 (2左) リハビリテーション患者の数の変化 (診療科数)

	1. 著しく増加	2. 増加	3. 変わらない	4. 減少	5. 著しく減少	6. 無回答
DPC病院	8	148	282	6	2	4
DPC試行的適用病院	5	122	163	7	0	10
DPC調査協力病院	12	187	355	14	1	6

質問5 (2右) リハビリテーション患者の治療方針 (診療科数)

	1. 自院で	2. 早期のみ	3. 行わず	4. 方針無し	5. 患者なし	6. 無回答
DPC病院	52	230	17	85	54	12
DPC試行的適用病院	90	125	9	32	39	12
DPC調査協力病院	145	228	11	74	106	11

χ 二乗 : $p=0.000$